

知床岬地区の現状と今後の対応について

1. 知床岬地区の現状

- ・ 2年連続で同地区のエゾシカ発見頭数が急増。
- ・ 知床岬地区の越冬数半減達成（2010年度）以降、直近10年間で最大。

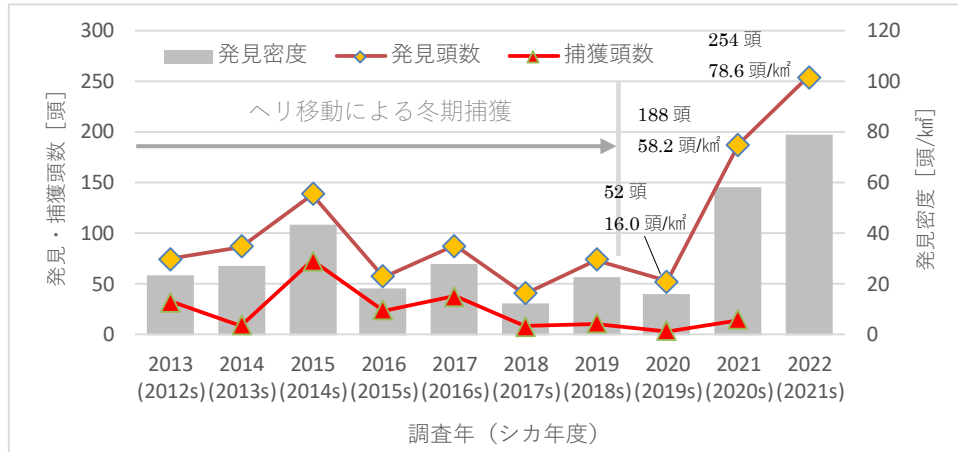


図 直近10年間の知床岬地区におけるエゾシカ発見頭数の推移（航空カウント調査）

想定される主な理由として、

① 航空カウント調査における技術上の課題（森林内の見落とし）

→2016年～2020年にかけてメス成獣の発見頭数はわずかだが、2018年冬期捕獲の際、夕方～日没頃にかけて、森林内よりエゾシカ群れ（メス主体、計29頭）が出没するのを現地を確認。

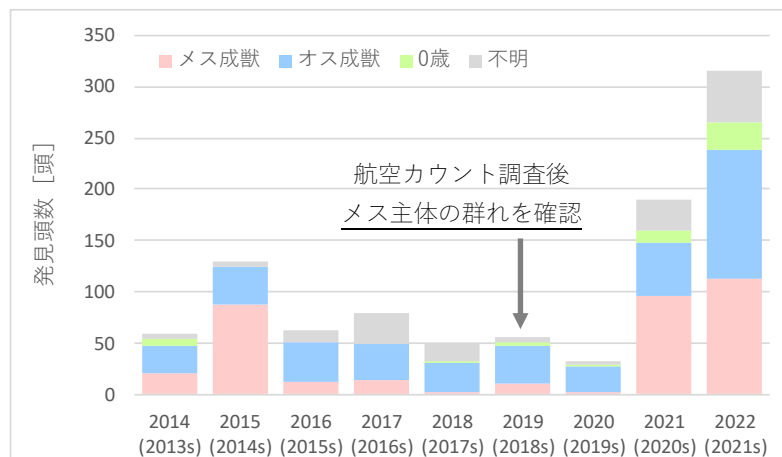


図 過去の知床岬地区におけるエゾシカ群れ構成内訳の推移（航空カウント（旋回撮影）調査）

②隣接する他地区からの移動・流入

→捕獲をほとんど行っていないエリア（5km、10kmの各バッファエリア）の発見頭数の年変動が少ないのに対し、知床岬地区（M00）のみ自然増加率を上回る急激な増加を確認。

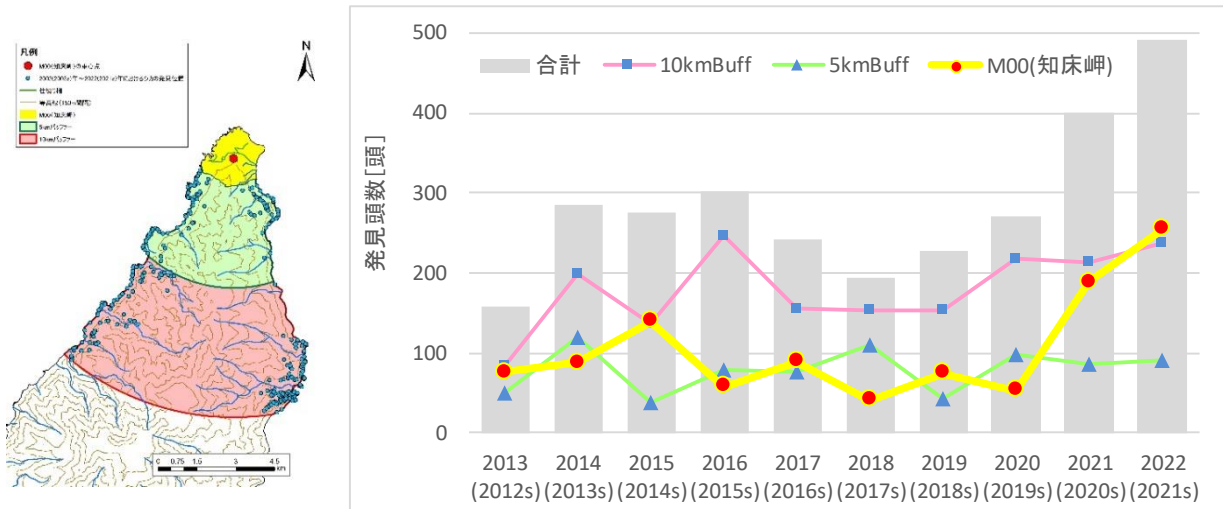
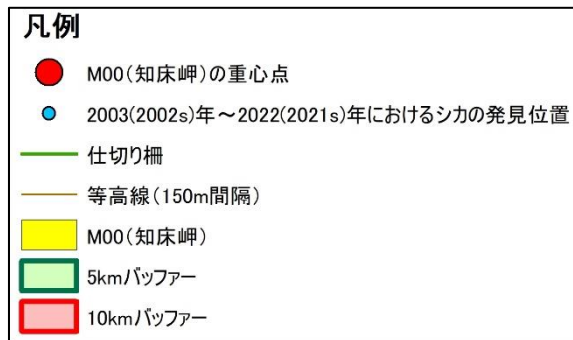
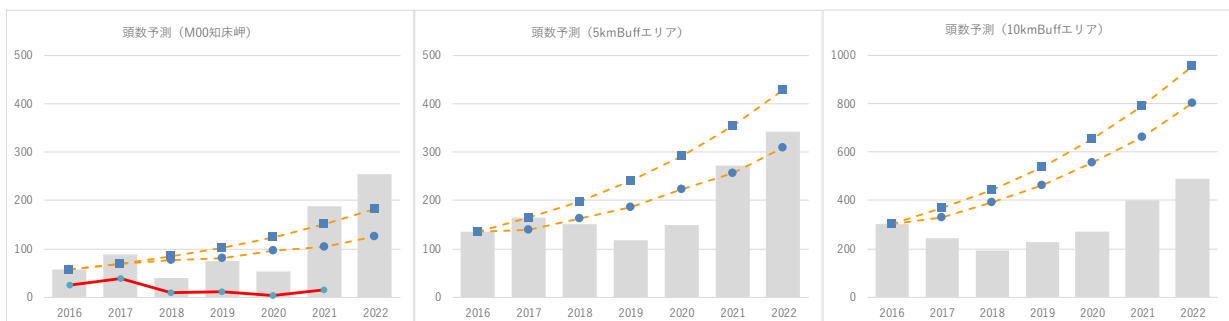


図 知床岬地区を中心としたバッファエリアと発見頭数の推移
※5km エリア並びに 10km エリアには M00 の発見頭数を含まない。



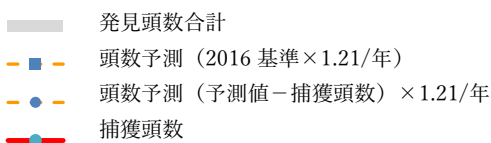
【参考】発見頭数とエゾシカの自然増加（一般的な条件下における予測値）との乖離状況



【予測頭数の算出条件】

- ・2016年の発見頭数を基準に仮定。
- ・年間自然増加率を群れ母数の21%とする（北海道エゾシカ管理計画の考え方に準拠）。
- ・捕獲は当年調査実施後に行われるため、翌年の予測値から捕獲頭数を除算する

【各グラフ凡例】



2. 現時点の対応・方針

(1) 個体数調整のための捕獲（実施中）

現在明らかになっている下記の課題についても、検討を進める。

- ・ 捕獲後の個体回収とヒグマ対策
- ・ 知床岬、特に羅臼側の捕獲取組強化
- ・ その他、効果的かつ効率的な捕獲取組に向けた各種検討

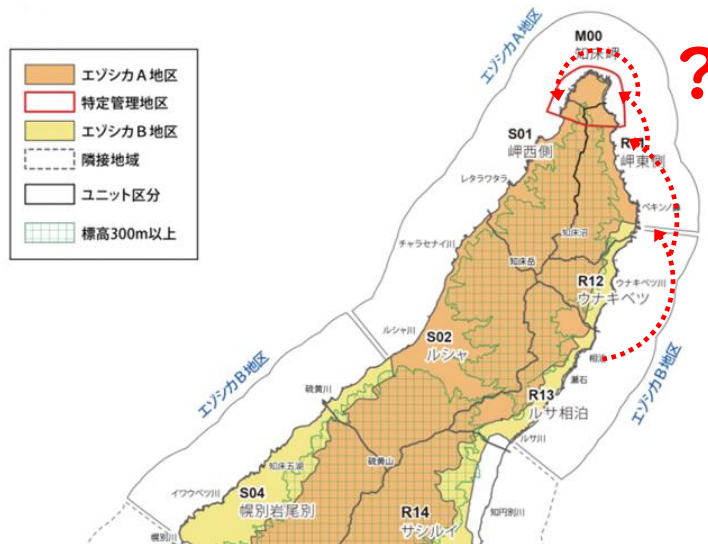
(2) 知床岬地区仕切柵等の改修

破損・老朽か所の修繕のほか、効率的な捕獲に向けた改修（ハイシート、仕切柵への扉の設置）のための工事を予定どおり実施。

3. 今後の対応・方針について（案）

(1) 効果的かつ効率的な個体数調整手法の追加検討

- ① 秋期～冬期の船舶による知床岬地区へのアプローチ（主に羅臼側ルートを想定）を含む新たな手法検討（捕獲試行を含む）



- ・ いつまで？
- ・ どのルートで？
- ・ 上陸後のオペレーションは？
- ・ 実施判断に必要な情報や基準
- ・ その他、実施に当たり必要な安全対策、資機材、コストなど

- ② 来年度以降、グリーンシーズン期（4～8月）の捕獲継続と強化

- ③ より精度の高いシミュレーションに基づくエゾシカ動態予測と捕獲目標(特にメス個体)の設定

(2) その他の課題

- ① 実行体制の強化・充実。特に以下の人材確保が重要。

- ・ 現地の状況に精通し、一連の捕獲取組の立案・管理を行える『プロフェッショナル』
- ・ 外部人材の受け入れなど、円滑な捕獲取組に向けた各種調整を行える『コーディネーター』

- ② 知床岬地区で重点的な捕獲を実施。

幌別－岩尾別、ルサー相泊2地区の捕獲取組は優先順位をつけて実施。

地区名	直近の状況
幌別－岩尾別	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度よりエゾシカ発見頭数の急増（170頭（5.85頭/km²）→299頭（10.28頭/km²）） ・ 捕獲実績頭数も大幅に増加（72頭→171頭）
ルサー相泊	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度よりエゾシカ発見頭数の減少（152頭（6.16頭/km²）→98頭（3.97頭/km²）） ・ 捕獲実績頭数は前年並み（20頭→18頭）

第4期知床半島エゾシカ管理計画における管理手法について

「既存の個体数調整手法に加え、相対的に低コストである新たな手法の導入や、これら複数の手法を捕獲時期等に応じて組み合わせる等、効果的かつ効率的な個体数調整を行う。」

(管理計画 p.11)

(1) 年度ごと実行計画(捕獲取組)の計画立案に係る要素

以下の要素を踏まえて計画を立案。

$$G^* \leq \text{捕獲頭数 (A, B, C \times N, M)}$$

ここで、

G^* ：その年の捕獲必要頭数(目標頭数)

(航空センサス調査における発見頭数と管理計画の数値目標より)

A：捕獲手法(手法ごと捕獲見込み頭数も割り出し)

B：捕獲時期

C：滞在期間(捕獲1回あたり)

N：捕獲回数

M：捕獲作業に係る経費総額(=予算額)

A. 捕獲手法

分類	猟法・猟具ほか	過去の 実施状況	知見・備考
銃猟	忍び猟	○	現在、主に用いている手法。単独~数人で移動しながら捕獲を行うため柔軟性に富む。
	流し猟	—	
	巻き狩り猟	○→×	2007年度から実施。エゾシカが仕切柵配置を学習する等、追い込み困難になり成果が上がらなくなったことから2018年度に中止。
	犬追い猟	—	
	コール猟	—	忍び猟時、シカとの遭遇機会の増加や足止め等に有効な可能性あり。
	待ち伏せ狙撃	○	現在、主に用いている手法。
	高所からの遠距離狙撃	×	2007年度から実施。エゾシカの出没状況に左右され射撃範囲も限定される等、成果が上がらず中止。
	ブラインド・ハイシート等からの狙撃	新規	2017年度よりエゾシカB地区（幌別-岩尾別地区）で導入実績あり。日没時銃猟（夜間銃猟）を行う際の安全対策上も有効。
	日没時銃猟	—	2020年度よりエゾシカB地区で導入実績あり。「指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画」による策定が必要。
わな猟※	くくりわな	△	2018~2019年度に実施（2018年度5頭、2019年度2頭を捕獲）。設置場所の検討等、運用方法の見直しにより成果が上がる見込みあり。
	箱わな	—	
	囲いわな	×	2019年度に実施するも捕獲なし。誘引期間が十分に取れない等、課題あり。
その他	捕獲個体の残置	△	2020年度に実施。「指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画」による策定が必要。ヒグマ活動期の実施については更なる検討が必要。
	ドロップネット	—	洞爺湖中島などで使用例あり。
	ギリースーツ	—	捕獲時、カモフラージュ効果によるエゾシカの警戒抑制。
	醤油塗布等によるエゾシカの足止め	—	洞爺湖中島などで使用例あり。
	硝酸塩入り餌による薬殺	—	法規定による制限あり。全国的にも知見が少なく、死亡した個体の追跡検証等も必要なため、現状では実施困難。

※わなによる捕獲は、ヒグマの活動期には選択不可。

B. 捕獲時期

時期	移動手段	コスト	備考
4~8月	海路	安価	海況が比較的安定しており、出猟可能日も多く見込める。
9~12月	海路	安価	天候悪化のため海況が安定せず、出猟も制限されることが多い。
1~3月	空路	高価	流氷期。コストが高く、これまで短期滞在による捕獲を実施。

C. 滞在期間

期間	従事者の 心身負担	安全面の リスク	捕獲成果 見込み	備考
日帰り	低	低	低~中	可猟時間が限られ、捕獲した個体の回収作業時間も見込むと広範囲や多くの捕獲実施は困難。
2~数日	低~中	低~中	中~高	宿泊を伴うため、夜間銃猟の実施も可能。
週~月	高	高	?	長期滞在施設の確保や食料等、生活物資の供給が必要。

※冬期間は、従事者の心身負担・安全面のリスクともに増加。

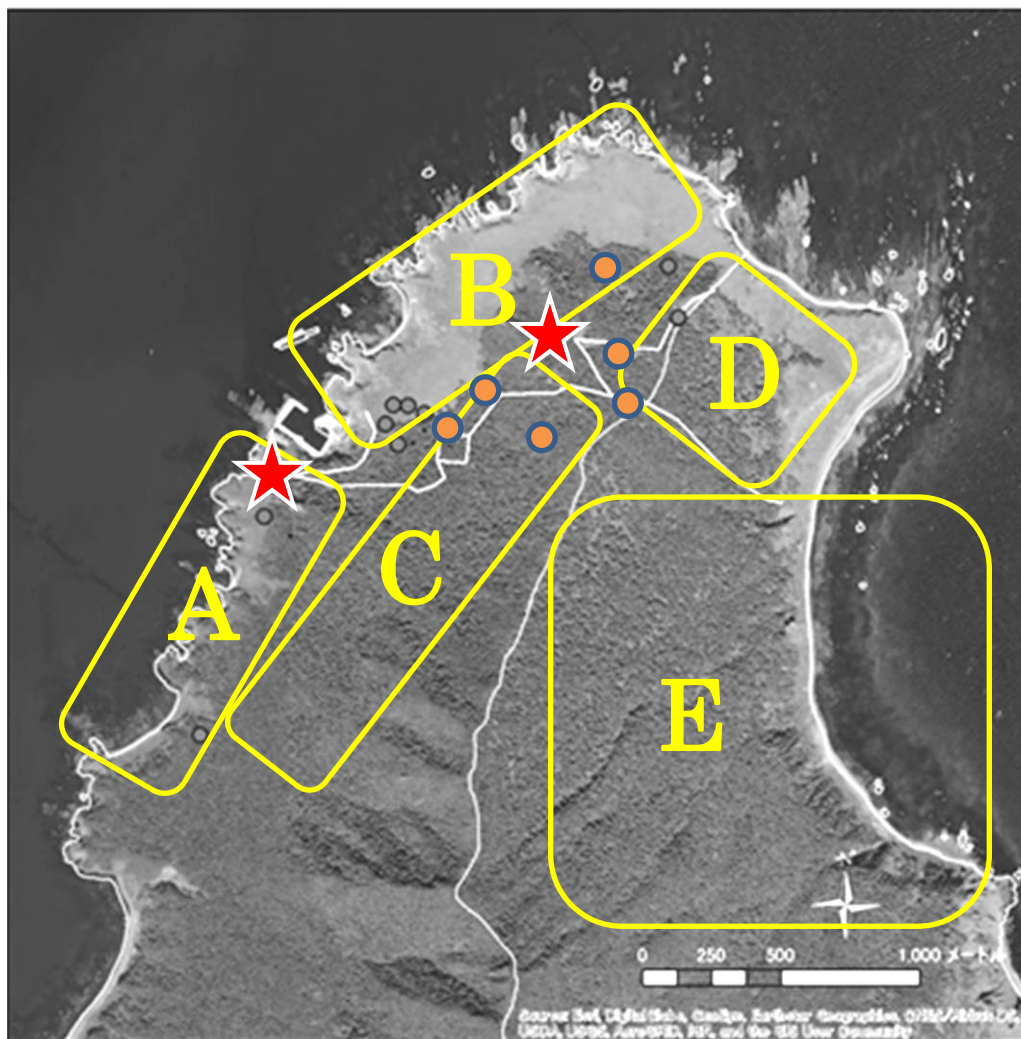
(2) 次期計画期間中の手法組み合わせ例 (2021～2022 シカ年度スケジュール案)

※赤字は昨年度 WG 資料より変更あったもの。

計画年度	目標頭数	捕獲手法	捕獲時期	滞在期間	捕獲回数
2021 2022	40 頭	忍び猟、待ち伏せ狙撃 を組み合わせる実施	2022 年 5～8 月	1泊2日～2泊3日 を想定	12 回

・捕獲取組と合わせてエゾシカの利用・出没状況等、計画立案に際して有用な各種情報の収集も実施。
これらの情報も基に、指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲個体の残置・日没時銃猟の可能性も検討。

①捕獲想定エリア



既設ハイタワー（★印）を作業拠点として利用。

●印はハイシート候補地（DEについては今シカ年度の結果も踏まえて設置場所を検討）

②対象エリアと捕獲想定パターン

No.	対象エリア (周辺環境)	主な捕獲手法	No.	対象エリア (周辺環境)	主な捕獲手法
A-①	A (海岸崖沿い)	忍び猟	C-①	C (林内)	忍び猟
A-②	A (崖沿い)	待ち伏せ狙撃	★C-②	C (林内)	待ち伏せ狙撃
B-①	B (草原林縁部沿い)	忍び猟	D-①	D (草原部)	待ち伏せ狙撃
B-②	B (仕切柵破損部)	待ち伏せ狙撃	D-②	D (仕切柵破損部)	待ち伏せ狙撃
B-③	B (草原部)	待ち伏せ狙撃	★D-③	D (林内)	待ち伏せ狙撃
★B-④	B (林内)	待ち伏せ狙撃	E-①	E (林内)	忍び猟
			★E-②	E (林内)	待ち伏せ狙撃

- ・表中★印は、ハイシートを利用することで可能となる捕獲パターン。捕獲時に選択の幅が広がり、他の捕獲手法と組み合わせることで、全体的な効果・効率の向上も期待される。
- ・この他、知床岬地区でハイシート等を利用する利点として、①ヒグマ活動エリアにおける従事者の安全確保（日没時銃猟等を含む）、②待機・射撃時の心身負担の軽減等。

③捕獲スケジュールと主な対象エリア（実施状況・予定）

月	第1週	第2週	第3週	第4週/第5週
4月	—	A→B	B→D	C→E
5月	—	A→B	B→D 5/18~19 現地調査・捕獲準備	C・E→B・C 5/25~26 捕獲7頭(2頭)
6月	A・B→C・D 6/2~3 捕獲2頭(1頭)	B・D→B・C 6/8~9 捕獲5頭(2頭)	C・E→B・D 6/15~17 捕獲6頭(5頭)	A・B→A・C・D 6/22~23 捕獲3頭(2頭)
7月	B・D	C・E	A・B	B・D/C・E
8月	A・B	—	B・D	C・E

- ・対象エリアごとに休止期間を間に設けることで、捕獲効率の向上を図る。
- ・観光客の岬利用が想定されるGWやお盆時期は捕獲中止。
- ・() 内頭数は、メス成獣の捕獲頭数(内数)。

「捕獲補助のために設置された仕切り柵を引き続き活用する。設置から10年以上経過していることも踏まえ、効果的かつ効率的な個体数調整を行うために必要な機能の維持や見直しを適宜実施するとともに、必要な改修及び修繕を行う。」

(管理計画 p.11)



修繕対象例① 風雪等による倒柱



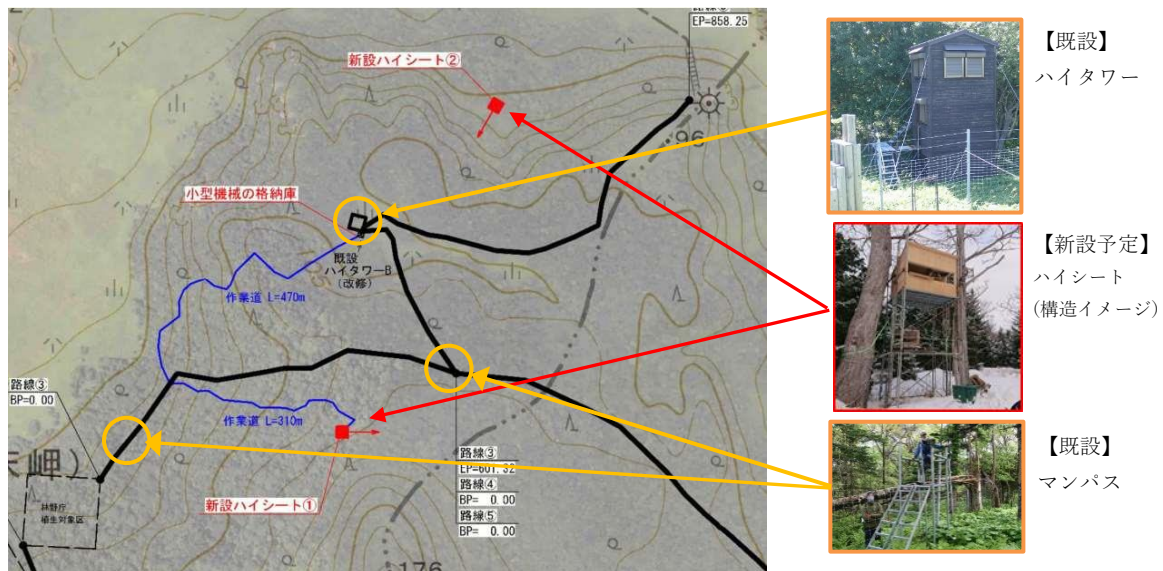
修繕対象例② 既設ハイタワーの老朽化



改修対象例 シカ利用が目立つ破網箇所



作業効率化のための使用機材例 (小型運搬機)



ハイシート候補地並びに作業ルート例

※ハイシートについては、来年度以降、現地の状況やハイシートによる捕獲効果も踏まえ、必要に応じて設置場所の検討と追加設置を予定。既存のハイタワー、マンパス等の利活用も合わせて行う。
 ※作業道については、路面整備など大規模な工事は行わず、①既存のシカ道等を利用する、②軽易な倒木処理 (小型運搬機が通行可能な幅を確保) に留める等、植生など環境への負荷も考慮して設定。
 ※第一回目の仕切り柵等の改修・修繕に係る工事は、来年夏頃を予定。